

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	おだわら総合医療福祉会館	階数	地上4F
建設地	神奈川県小田原市久野115-2ほか	構造	S造
用途地域	準工業地域 防火指定無し	平均居住人員	679人
気候区分		年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	事務所、学校、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年1月 予定	評価の実施日	2012年11月24日
敷地面積	3,261 m <sup>2</sup>	作成者	金子設計
建築面積	1,695 m <sup>2</sup>	確認日	2012年12月5日
延床面積	6,390 m <sup>2</sup>	確認者	金子設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: A: B+: B: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 事務所、学校、児童福祉施設の複合施設となっており、利用時間帯や目的が異なるため、各々の動線や空間を明確に分け、また空調や照明制御も各々の管理で行えるように計画した。		<b>その他</b> 埋蔵文化財発掘調査を行い、発掘遺物などを展示する予定。
<b>Q1 室内環境</b> なるべく開口を設け、自然採光自然換気を取れる計画とした。建物の軽量化を図り、乾式間仕切りを採用しつつも、遮音性能が取れるよう配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務スペースはO Aフロアとし、17F外変更が容易に行えるよう計画。全館禁煙や防汚性のある仕上げ材を採用し、メンテナンスしやすい建物とした。災害時には一時避難場所となるよう耐震基準25%増しとしている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外壁面のセットバックや歩道に沿った植栽など、街並みに配慮した計画とした。立地の特性を把握し、神奈川県に適した植栽を行うとともに、維持管理に必要な設備及び管理方針を示している。
<b>LR1 エネルギー</b> 開口部には複層ガラスやLED照明を採用し、省エネを考慮した建物とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器や自動水洗を採用。また、内部間仕切り壁を乾式とし躯体と仕上材を容易に分別できる構造とした。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場や駐車場を必要数確保。日影規制は計画敷地の規制5時間/3時間に対し、1ランク上の基準を満たしている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される